

第 1 分 科 会

会場 札幌プリンスホテル
6階 「大雪」

分科会テーマ

「中体連の組織の運営と競技会の運営」

パネリスト

- ◆ 大 崎 大 高知県中学校体育連盟 理事長
高知市立城北中学校

「高知県中学校体育連盟の現状と課題」
～運動部活動マナーアップの取組～

- ◆ 板 床 龍 哉 熊本県中学校体育連盟
上益城郡中学校体育研究会 理事長
山都町立蘇陽中学校

「熊本県における中学校総合体育大会の運営と課題について」
～郡市運営からブロック運営の取組を通して～

指導助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副会長	泉 和 善
	北海道中学校体育連盟	副会長	宮 森 正 志
司 会 者	北海道大会実行委員会	運営部員	井 上 大 輔
運営責任者	北海道大会実行委員会	運営部員	佐 藤 克 也
記 録 者	北海道大会実行委員会	編集部員	三 上 明 博

高知県中学校体育連盟の現状と課題

～運動部活動マナーアップの取組～

高知県中学校体育連盟 理事長
高知市立城北中学校 大崎 大

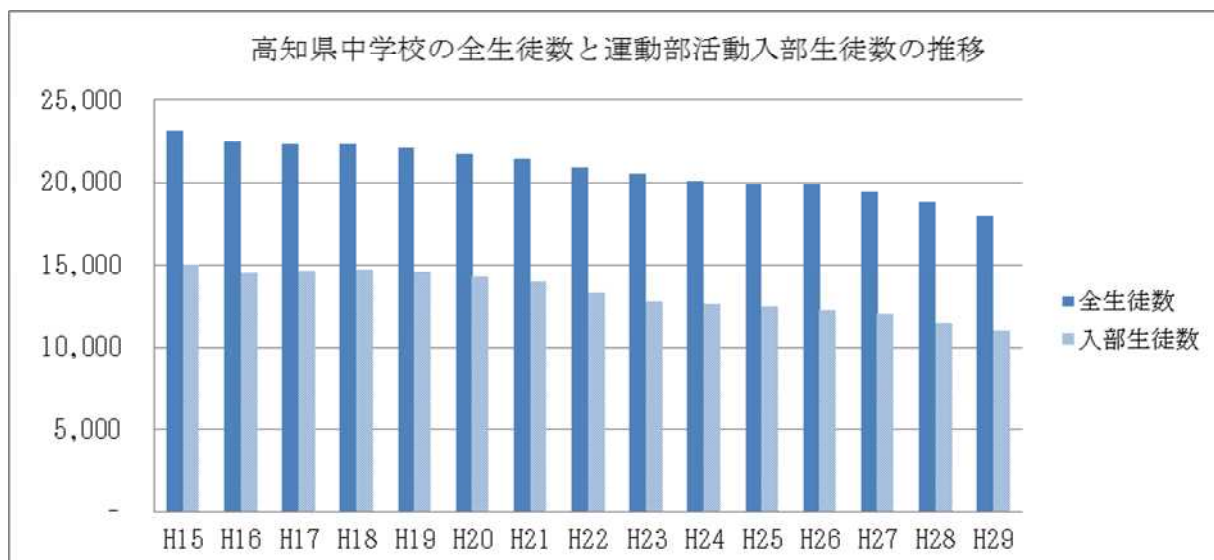
< 提案趣旨 >

毎年7月末に開催される県総合体育大会は中体連で最も大きな行事である。大会の終了後には例年たくさんの反省が出され、会場使用・応援・判定への態度など、改善しなければいけない課題があげられてきた。それらの中でも、運動部活動において最も大切にすべきマナーを全ての競技で向上させるために、本連盟では平成28年度から「マナーアップ運動」の取組をスタートさせた。その取組による成果と今後の課題について考えてみた。

1 はじめに

本連盟は安芸、香長土、高知、高吾、幡多の5つの地区中体連をもって編成されており、現在117校が加盟している。競技専門部は今年度から新たに弓道が加わり、19競技で組織されている。

生徒数の減少は本県にとって大きな問題となっている。平成15～29年の15年間で生徒数は23,122人から18,000人、運動部活動の入部生徒数は15,032人から10,920人とそれぞれ約5,000人が減少している。特に軟式野球、ソフトボール、相撲は本県でも競技性が高く、「お家芸」とされてきた競技であるが、競技人口の減少は著しく、部活動としての存続が難しい学校が増えてきていることが近年の課題となっている。



2 マナーアップ運動の準備から実施まで

7月の県総合体育大会でのマナー面においては、大会終了後の反省で各競技部から毎年たくさんの課題が出されてきた。

[平成 26・27 年度県総体反省より]

- 応援では問題なく節度を守った応援ができていた。
- ヤジなどもなく、マナーが良く応援できた。
- ▲ ゴミが多い。ゴミの持ち帰りが徹底できなかった。
- ▲ 会場入口の玄関に靴が放置されて散乱している状態であった。
- ▲ 1日目のゴミをそのままにして帰った学校があった。2日目の監督会議で注意した。
- ▲ 駐車場の問題。会場周辺に路上駐車があり、放送により移動をお願いした。
- ▲ 会場施設の行事予定を記入しているホワイトボードの文字が故意に消されていた。
- ▲ 応援席から生徒役員の判定に対する不満の大声があった。
- ▲ 近隣の別施設の駐車場に駐車した保護者の車があった。別施設の利用者から苦情があった。
- ▲ 保護者の撮影マナー（フラッシュ撮影など）があったので放送で注意した。

前述のような状況において、平成 26 年度に四国ブロックで全国中学校体育大会が実施され、本県では水泳競技、サッカー、バレーボール、剣道の4競技を開催させていただいた。各競技においては出場選手・監督だけでなく、大会を支える役員として多くの先生や生徒が参加することで成功させることができた。大会運営を通して「全国トップクラスの選手やチームはマナーも素晴らしい」という声が多く関係者から聞こえてきた。このことは全国大会を開催したことで学んだ貴重な財産である。

全国大会の開催で学んだことをかたちにしていくために、マナーアップの向上を目指す取組を実施するために計画をすすめることにした。平成 27 年度に県中体連常任理事会で原案を作成し、平成 28 年 4 月からの実施に向けて準備をすることが決まった。

マナーアップの具体的な手だては、3つにしぼって提案することにした。

- 手だて 1 気持ちの良いあいさつをしよう
- 手だて 2 美しい環境をつくろう
- 手だて 3 大会での会場使用のルールを守り、試合中の対戦相手や審判への感謝の気持ちを忘れず、応援のマナーも良くしていこう

また、実施方法は次のように決定した。

- (1) 4月開催の第一回理事会で宣言し、各地区中体連、各競技専門部に伝達する。
- (2) 県総体の競技別開会式において、部長または専門部長がマナーアップ運動についての話をする。また、閉会式の講評等で大会期間中のマナー面での評価を行う。
- (3) 競技ごとにマナー面での反省項目を出してもらい、改善に努めていく。

手だてや実施方法が決定し、平成 28 年度から開始できる準備を整えることができた。4 月の第一回理事会には地元の新聞社も取材に入ることから、翌日の新聞にマナーアップ運動のことを記事にさせていただくように依頼し、県民にもアピールできるようにした。また、A 4 紙 1 枚にまとめたシート（右図）を作成し、県内すべての中学校に配布する会報の裏面に印刷をして学校関係者の目にふれるようにした。県総体のプログラムにも同様に裏面印刷し、大会前から競技部にも取組を周知させ、マナーの改善を呼びかけるように準備をすすめた。

部活動マナーアップ運動について

高知県中学校体育連盟では平成28年度から
「部活動マナーアップ運動」の実施を宣言します

マナーアップのための具体的な手だてとして以下の3つを大切にしています

手だて ① 気持ちの良いあいさつをしよう

手だて ② 美しい環境をつくろう

手だて ③ 大会での会場使用のルールを守り、対戦相手や審判への感謝の気持ちを忘れず、応援のマナーも良くしていこう

高知県中学校体育連盟は体育授業や運動部活動を通して、すこやかな体と心を充実させることを活動の目的としています。また、運動部活動で競技への興味や関心を高めながら、高知県の競技力向上につなげていく取り組みもおこなっています。

平成26年度に本県で開催された全国中学校体育大会(全中)では「**全国トップクラスの選手やチームはマナーも素晴らしい!**」ということを学びました。

高知県の競技力を全国レベルに近づけるために私たちが今すぐに行えること、それはマナーを全国レベルに引き上げることです。

運動部活動にかかわる選手、顧問の先生、応援してくれる保護者の方など、一人ひとりの心がけや行動で、よりよい活動を実施していきましょう。

少しのことを変化させるだけで結果が大きく変わることもあります。きっと、県全体のマナーを良くすることが競技力向上の第一歩となるはずですよ。

みんなが「チーム高知」の一員として共通の目標を持ち、全ての競技においてマナーアップ運動を実施していきましょう。

このマナーアップ運動を通して、前述の目的を達成することができることを期待しています。

高知県中学校体育連盟

3 マナーアップ運動の成果

取組の1年目となった平成 28 年度の県総体終了後には、次のような反省が競技専門部から提出された。

[平成 28 年度県総体の反省]

- 開会式で全生徒に伝達したことで応援は少し良くなったように思う。
- マナーアップ運動を周知した効果があり、大会 2 日目はすばらしい挨拶ができていた。
- 6 月に各校にマナーアップについての説明と専門部としての考えや思いを伝えていたので、顧問の先生方も意識して指導にあたってくださっていた。
- 開会式での諸注意で選手・指導者にマナーに関する注意事項を徹底した。各校での事前指導も行き届いており、前年度よりも良いマナーで大会を終えた。
- ▲ 一部の指導者の判定へのアピールや選手の態度が悪いと審判団から指摘を受けた。
- ▲ 指導者の選手に対する声かけで不適切なことばもあった。
- ▲ 保護者の駐車マナーが悪い。

競技専門部によっては事前の周知に差がみられた。7 月の県総体までの短い期間に顧問会議でマナーアップの徹底を事前連絡していた競技では、大会中の選手のあいさつや態度、保護者の応援、会場使用の仕方にも改善がみられたという意見が出された。

実施 2 年目の平成 29 年度の県総体の反省においては、マナーアップ運動の成果を 5 段階で評価してもらうことにした。さらに評価の理由について、記述式で説明を求めた。

[平成 29 年度県総体反省]

成果がみられた ←————→ 成果がなかった

評 価	5	4	3	2	1	評価平均
競技数	4	1 2	2	1	0	4.0

- 会場でのあいさつや設備の扱い、グラウンド整備などを生徒たちが意識して実践し、気持ちの良い大会となった。先生方も高い意識で指導にあたったことが成果に繋がった。
- 監督会議でマナーアップ運動について話し、生徒や保護者への伝達がきちんとおこなっていた。応援の仕方やあいさつなどの意識を高く持っておこなうことができた。
- トイレや駐輪場の見回りをおこなったが、きれいに使用していた。指導者のマナー、保護者の応援マナーには改善がみられた。
- 地区大会からマナー向上を呼びかけ、監督会、開会式でもお願いをして多くの関係者が守られていた。気になるような応援態度はなく、会場片付けでは多くの人が協力してくれた。
- 競技部独自のマナーアップ事項を各チームが意識して取り組んでいた。
- 会場使用の状況も良く、生徒たちも互いに挨拶ができた。
- 応援者の好ましくない態度は見られなくなった。
- 道場への入場・退場の際の礼やあいさつ、競技後の片付けはどの学校もよくできていた。
- ▲ 各校でゴミの回収をおこなったがペットボトルが残っていた。6月に実施された大会よりはゴミは減っていた。
- ▲ あいさつができていない場面が多くみられた。
- ▲ 会場敷地内での車の乗降マナーが悪く、周辺に迷惑をかけてしまった。
- ▲ あいさつができる学校が増えたが、全くできない学校もある。個人ゴミが放置されていた。
- ▲ 「応援は拍手のみ」（競技部ルール）が一部守られていなかった。

4 反省と今後の課題

平成 29 年度の評価平均は 4.0 であったが競技専門部長の主観によるものであり、数値だけで成果を図ることは難しい。反省の記述では改善された内容が増え、良いことが具体的に書かれており、それが増えてきたことは大きな成果であると考えます。マナーアップへの関心を高め、さらに続けていくために取組に工夫を重ねていくことが今後の課題である。また、これまでは教員から反省を集めてきたが、生徒側から見た成果についての意見を聞くことも実施していきたい。中学校の運動部活動が教員の多忙化の要因として問題視されている今、中学生時代に運動部活動を行う本来の意義を伝え、正しい活動を促していくことは中体連が担っていく大切な役割である。ルールやマナーを守ることは当たり前のことであり、当たり前のことを自然にできる、当たり前の習慣を身につけることができる中学生のための運動部活動が行えるよう、マナーアップ運動を高知県中体連の柱として、今後も取組を深めていきたい。

熊本県における中学校総合体育大会の運営と課題について

～郡市運営からブロック運営の取組を通して～

熊本県中学校体育連盟・熊本県中学校体育研究会

板床 龍哉

< 提案趣旨 >

昭和23年、中学校体育連盟が発足して以来、熊本県中学校総合体育大会を行ってきた。ここ数年、郡市毎に輪番制で開催してきたが、生徒の減少や市町村合併による中学校の統廃合、それに伴う保健体育担当者の減少等により、大会運営が難しくなってきた。そこで、数年の準備期間を経て本年度より県内を5つのブロックに分け、そのブロックで大会を運営する方法を取り入れた。1年目ということでは大会前には見えなかった様々な課題が見つかり、今後それらを工夫、改善していくことが求められている。

1 はじめに

昨年度は熊本地震が発生し、甚大な被害を受けた。多くの学校が被災し、校舎や体育館が使えない状態が続くなか、全国より心のこもった激励のメッセージや物資等の提供を頂いたことに心から感謝している。4月14日に前震が発生し被害がでて、その片付けに取りかかったところに16日の本震が発生したことで、物心両面で大きなダメージを受けた。そんな時、全国から届いたメッセージにどれ程励まされたか計り知れない。部活動では、入学式も終わり新入生が部活動の見学をし、2・3年生は県中学総体の予選となる郡市の中学総体に向け熱の入る練習をしている頃だった。家が倒壊し、学校の校舎や体育館も被害を受け、被害を免れた体育館は避難所になり、グラウンドには仮設テントが建てられた。郡市総体ができるのかと危ぶまれる状況のなか、期日を延期したり会場を別の場所に移したりして、できる限りの対応をして郡市の大会を開催した。県大会も同様に会場を変更するなどして開催した。本年度からは施設や保健体育担当者の数、郡市同士のつながりで、県を5つの地区に分け、その地区ごとに協力して県中学総体を開催した。本年度はその1年目ということもあり、沢山の課題も明らかになった。ここでは、大会開催の場所や施設、運営スタッフとなる保健体育担当者数、予算面を中心にそれらの課題を整理し、改善に向けた対応を考え、今後につながる発表にしたい。

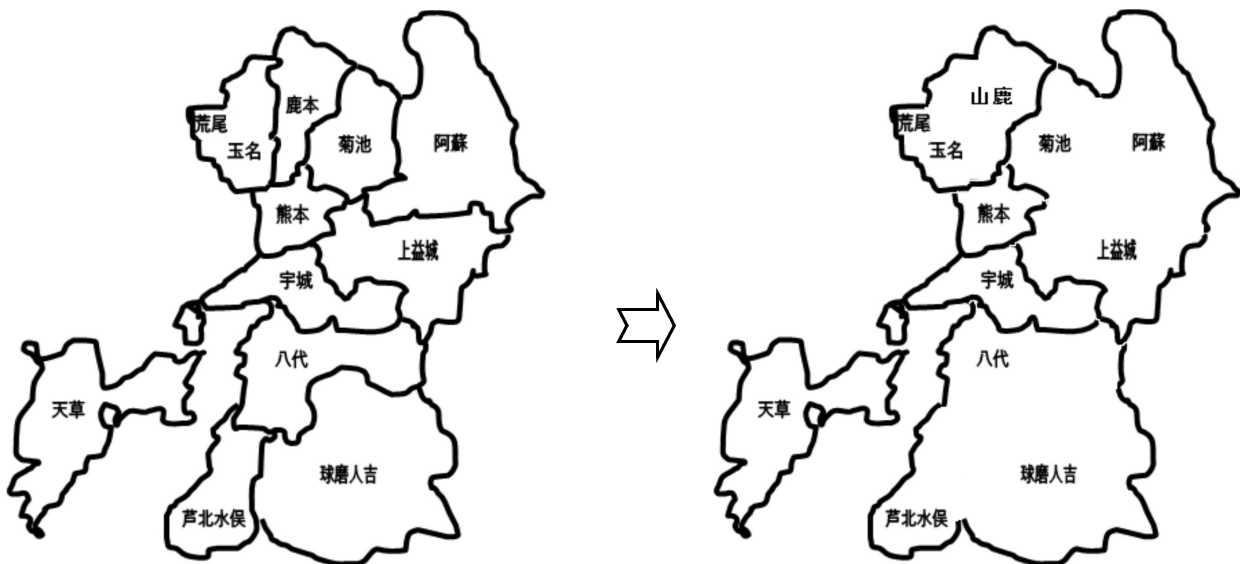
2 熊本県中学校体育連盟のこれまでとこれから

(1) これまでの熊本県中体連の歴史

- 昭和23年 12月1日熊本県中学校体育連盟発足
- 昭和25年 第1回ジュニアレクリエーション大会開催
- 昭和27年 九州中体連発足・加盟
- 昭和28年 全国中体連発足・加盟
- 昭和33年 ジュニアレクリエーション大会を熊本県中体連大会に改称
- 昭和43年 郡市大会予選の後6ブロック大会を経て県央大会
- 昭和47年 ブロック制中止、郡市代表制
- 昭和49年 第1回熊本県中学校総合体育大会の開催
- 平成29年 5ブロック制による県大会の運営

昭和43年頃は郡市大会予選の後、6つのブロック大会を経て県央大会に出場という記録が残っている。その後昭和47年からブロック制を中止し各郡市代表制となった。大会開催地は、郡市持ち回り制になり平成28年度まで続いてきた。平成17年の第1回組織運営検討委員会で、郡市持ち回りでの大会運営は厳しくなってきたという意見が出され、平成18年からブロック運営が検討されるようになった。この10年間でも、ブロック運営案が白紙に戻ったり、競技別の固定運営案が出てきたりしたが、数年かけて検討された結果、29年度からのブロック運営になった。

(2) ブロック運営による変化



図A < 11郡市による運営 >

図B < 5ブロックによる運営 >

①会場・施設の変化

大会を開催する会場は健康面への配慮や安全面への対応から、年々良い会場への要

望が高まってきている。屋外競技は広さだけでなくその質が要求され、人工芝やオムニコートが選ばれるようになり、室内競技では空調設備の整った会場が求められるようになった。しかし全郡市、全種目、要望に応じた施設がなく会場探しが難しくなってきた。昨年度までの郡市持ち回り運営では、図Aのように熊本県を11の郡市に分け各郡市毎が主管となり県中学総体を運営してきたが、本年度から図Bのように①玉名荒尾・山鹿②菊池・阿蘇・上益城③熊本市④宇城・天草⑤八代・球磨人吉・芦北水俣の5ブロックで運営することになり、競技会場となる施設が増え、より良い競技環境で大会を運営することができるようになった。

②学校数、体育担当者数の変化

平成28年度

	荒玉	山鹿	菊池	阿蘇	上益城	熊本	宇城	天草	八代	人球	芦水	計
学校数	16	6	12	12	8	43	11	23	18	12	8	169
担当数	25	11	34	14	13	118	22	25	27	20	10	319

ブロック編成後

	玉名荒尾 ・山鹿	菊池・阿蘇 ・上益城	熊本	宇城・天草	八代・球磨人吉 ・芦北水俣	計
学校数	22	30	43	31	38	164
担当数	42	60	120	45	58	325

生徒の減少に伴い学校の統廃合で保健体育担当の数が減少し、大会を運営することが困難になってきた。5ブロック編成前の状態であれば、本年度の芦北水俣は大会の計画、準備、運営を9人で行わなければならない1人で何役もの係を兼任しなければならなかった。ブロック運営することでスタッフも確保することができ、1人が何役も兼任しなくても良い状態になり、煩雑さが解消され運営もスムーズに行うことができた。

③予算面での変化

昨年度までは徴収していなかった参加料を本年度から徴収した。これまで運営郡市には、各市町村から大会運営費の約半分を負担してもらっていたが、現状として厳しい状況になったからである。参加料を徴収することで予算での課題を解消することができたが、空調設備の整ったより良い施設を会場にできるようになったことで、これまで以上に空調設備費がかかるようになった。

3 ブロック開催について

(1) ブロック開催によるメリット

- ①開催地域が拡大されるため、施設確保がしやすくなる。
- ②開催地域が拡大されるため、学校数や保健体育担当者数も増え人的負担が軽減される。
- ③複数郡市による開催、参加料の徴収により、運営郡市への予算の負担軽減が見込まれる。など

(2) ブロック開催により心配させるデメリット

- ①運営するローテーションが早くなる。
- ②運営郡市からの生徒やチームの出場枠の問題が出てくるのではないかな。
- ③開催ブロックの郡市は準備のために何度も会議を行うが、ブロック全地域から集まると範囲が広く時間や旅費の面からも会議が制限され十分な話し合いができないのではないかな。

上記のようにブロック開催をすることで幾つかのメリット、デメリットが考えられる。特にデメリットについてはその解消方法も検討されている。出場枠については、11の郡市代表は団体戦1チーム、個人戦2名が原則であるが、参加数の多い熊本市は団体戦2チーム、個人戦は4名になっている。トーナメント戦が公平でスムーズに進行できるように、16チームや32名になるように残りの枠を更に参加数の多い郡市や運営郡市に割り当ててきた。団体戦では、運営郡市でのプラス枠が2枠になることが多く、3郡市が1つのブロックになった場合、どの郡市がその運営郡市枠を取るかなどの課題が出てくる可能性がある。

4 まとめ

本年度より始まったブロック制による熊本県中学校総合体育大会であるが、まだ試行錯誤の状態であり、改善すべき点も少なくない。本年度は設備の整った施設で大会を開催することができ、より良好な環境で競技することができた。会場の割り当ても会議で決定することができ競技間で会場をめぐるトラブル等もなかった。全競技のうち約2/3をブロックで運営し、残りを他郡市で運営したが、今後は、地域により施設の数や設備が異なるため、早めに準備に取りかかる必要がある。さらに、生徒数の減少に伴い、学校の統廃合はこれからも進んでいく。5つのブロックでスタートしたこの体制であるが、将来的には変わることも考えられる。また、運営費を参加者負担としたことについても見直しを持っておかなければならない。空調設備費という新たな課題も見つかり、様々な心配はあるが新たに始まったブロック制の利点を生かし、その年々の反省を改善して次年度につなげ、生徒達にとって最高の舞台で最高のパフォーマンスが発揮できるようこれからもより良い組織づくり、大会運営に努めていかなければならない。